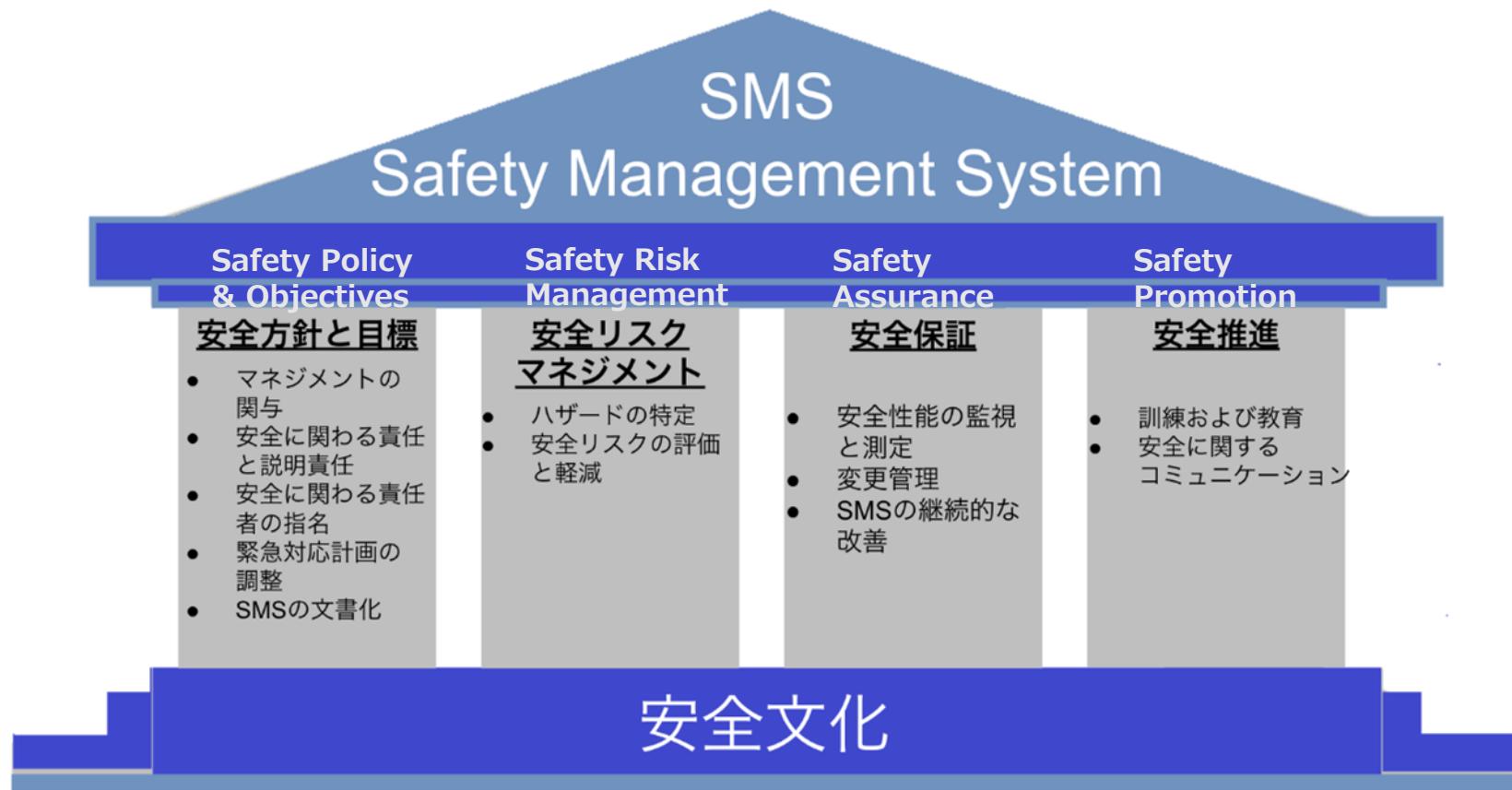


安全と向き合う



日本航空 株式会社
安全推進本部長
ご被災者相談室長
立花 宗和

世界中の航空会社が目指す安全管理 Safety Management System



ハインリッヒの法則 Heinrich's law



1 重大な事故・災害

29 軽微な事故・災害

300 ヒヤリハット

現場の状況
不具合要因
を見つける

安心して報告できる環境の整備



- エラーを減らし、現場の不具合を見つけるためには、自分のエラーやヒヤリハット体験をオープンにできる風通しの良い職場風土を醸成し、多くの情報を共有することが必要。

一方で、人は、『ミス＝懲戒であり、失敗を隠そうとする、恥だ考える』

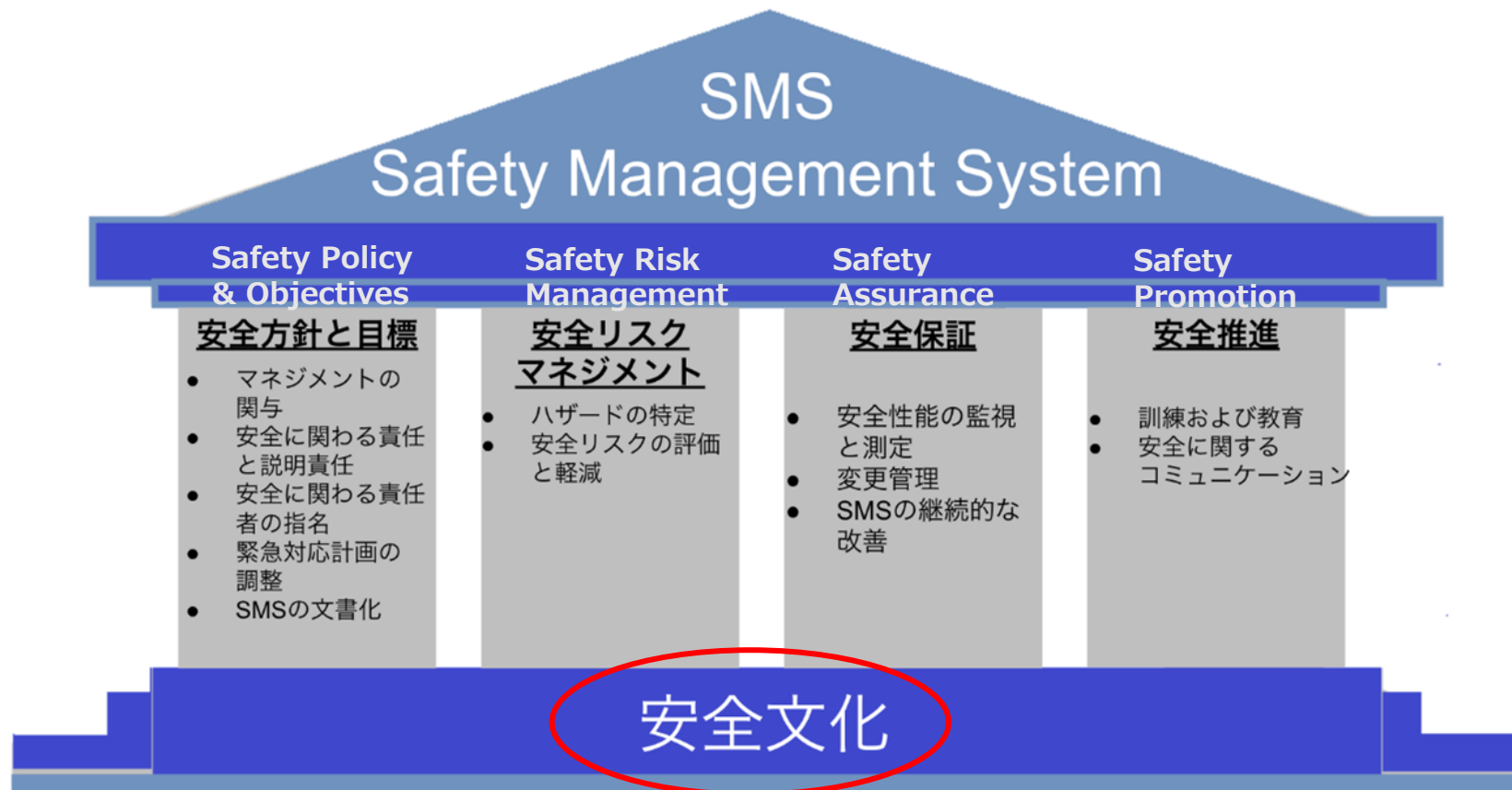


全ての社員の安全に係わる判断や行動は、結果を問わず、尊重され、許容される

ただし、著しい怠慢行為、無謀とみなされる意図的な行為、または虚偽、隠ぺいを含む意図的な不正行為は許容されない

経営トップのコミットメントとして安全管理規程に明文化し、社員に周知

世界中の航空会社が目指す安全管理 Safety Management System





2024 年 1 月 2 日

「奇跡の脱出劇」？ Are we any different?



“It was a miraculous performance”
「素晴らしい仕事だった」

“How did you guys train the crew ?”
「どんな訓練をしているんだ？」

“What’s the secret ?”
「何か秘密でもあるのか？」

How did almost 400 people safely evacuate burning Japan Airlines jet after Haneda Airport crash?

As Flames Surged, Order Prevailed Inside a Japan Airlines Jet

In addition to a well-trained crew and an advanced plane, the safe evacuation of 367 passengers came down to a relative absence of panic.

'It was a miracle': How passengers escaped a JAL fireball in Tokyo

“Really, the Japan Airlines crew in this case performed extremely well,” Dr. Brown said. The fact that passengers did not stop to retrieve carry-on luggage or otherwise slow down the exit was “really critical,” she added.

三現主義教育【現地】【現物】【現人】



「常に安全を大前提として考え行動する」安全文化醸成の一環としての「三現主義」

三現主義とは、現場に足を運び、直接現物を見たり、現場にいる人の話に耳を傾けること。頭の中で考えて、それを実際の見聞の中で検証し、答えを出す行動を繰り返すことでしか自分の中に残る知識はできないし、人に伝えることもできない。



(安全アドバイザーグループ 畑村洋太郎先生「失敗学 実践講義」より)

JALグループの三現主義は主に御巣鷹山事故を中心に、

- ・「**現地**」である御巣鷹の尾根に慰霊登山を行うこと、
- ・ 安全啓発センターで残存機体などの「**現物**」と向き合うこと、
- ・ 安全講話などの機会を通じ、事故に関わられた「**現人**」（社員や関係者）の方から当時の状況や気持ちを直接伺うこと、で構成しています。

【現地】慰霊登山



- JALグループでは、新入社員の入社時や組織の中で役割が変わる節目において、慰霊登山を行っています。

キャリアの節目に慰霊登山し、自らの役割を踏まえ、改めて知り、感じ、考えることを通じ、安全のために自分にできることは何かについて、振り返る機会としています。

慰霊登山対象者

- ・ 新入社員
- ・ 職場でリーダーとなる入社10年目前後
- ・ 管理職、役員への登用



【現地】慰霊式典の視聴



- これまで社員には慰霊式典を知る機会はありませんでしたが、WEBを通じて視聴させていただくことで、現地でどのように挙行されているのかを**知り、感じ、考える**ことで、安全について改めて考える機会としています。



123便事故 追悼慰霊式



第50回モスクワ事故慰霊式典



羽田沖事故40周年追悼慰霊式典

【現物】安全啓発センター



- 事故の教訓を次世代に継承し、安全運航の重要性を再認識する場として2006年開設
社員一人ひとりが、人命の尊さを再認識し、安全について何をすべきか自ら学ぶ場としています。



【現人】安全講話「語り継ぐ」



■ 事故を実際に経験された方から直接お話を伺うことで、事故の本質に触れ、そこから得られる教訓をこれからの安全運航に活かすことを目的に、2005年から毎年開催しています。



【現物】三現主義の流れは世界へ

- 業界二大大手のボーイング社、エアバス社も昨今それぞれ安全啓発センターを開設
航空業界の企業・社員の安全に対する向き合い方が変わりつつある



ボーイング 安全啓発センター



エアバス 安全啓発センター

「奇跡の脱出劇」？ Are we any different?



“It was a miraculous performance”

「素晴らしい仕事だった」

How did almost 400 people safely evacuate burning Japan Airlines jet after Haneda Airport crash?

三現主義

過去の教訓から学ぶ

“How did you guys train the crew?”

「どんな訓練をしているか？」

風化させない

自分事として感じる

“What’s the secret?”

「何か秘密でもあるのか？」

➡社員の安全との向き合い方

As Flames Surged, Order Prevailed

Inside a Japan Airlines Jet

In addition to a well-trained crew and an advanced plane, the safe evacuation of 367 passengers came down to a relative absence of

‘It was a miracle’: How passengers escaped a JAL fireball in Tokyo

“Really, the Japan Airlines crew in this case performed extremely well,” Dr. Brown said. The fact that passengers did not stop to retrieve carry-on luggage or otherwise slow down the exit was “really critical,” she added.

つながりは、 未来への翼だ。

空を飛ぶという人々の夢を実現した飛行機。
地球上あらゆる場所への
安全・安心な移動に貢献してきた私たちJALは、
その先にある新しい生き方を暮らしでを創造しています。

それはたとえば、
人々が愛着のある場所をいくつも持ち、
季節ごとに地域を移り住む未来。
多様な価値観を持つ人たちが集まって
新しい想いにぎわいを生み出す未来。
地元の人と共に土地の歴史・文化を学び、
継承していく未来。

つながりを価値にお客に届ける地域が、
人生にいくつもある生き方は、社会も経済も環境も
つなげることで実現していきます。

あらゆる地域で関係・つながりを築き、
多くの人々や企業・事業が自由に行き交う。
心はすなわち社会・未来を実現するために。
JALはその翼をさらに大きく広げていきます。

 JAPAN AIRLINES

ご清聴ありがとうございました

JAL
FUTURE
MAP